



令和8年度(2026年度) 「ものづくり人材」育成支援プログラム 参加者募集のご案内

芝浦工業大学は、さいたま市内の地域企業の若手技術者を対象に、DX（デジタルトランスフォーメーション）をテーマとした実践的人材育成プログラムを開催します。地域企業の若手技術者と本学の研究者（学生）が共同でDXによる課題解決のための手法やIoT試作のための基礎技術を学習します。本プログラムで、DXを導入し検証することの経験を通して、企業のものづくり改革のための人材育成を目指します。

ものづくり企業の若手技術者の皆様、本学研究者と一緒にDXについて学びませんか？

【研修期間】 2026年8月～2027年3月

【研修会場】 芝浦工業大学 大宮キャンパスの教室または会議室

埼玉県さいたま市見沼区深作 307

https://www.shibaura-it.ac.jp/about/facility/omiya_campus.html

【開講式】 開催日：2026年8月31日(月)15時～

会 場：芝浦工業大学 大宮キャンパス GLC（グローバルラーニングcommons）

式次第：ご挨拶（主催者、協力機関）、研究者紹介、研修プログラムの説明と進め方ほか

【研修の目的：DX時代のものづくり人材の育成】

研 修	研 修 内 容
(1) ワークショップ (グループ別活動) 原則：毎月1回開催	参加者と学生がグループを組み、グループ毎にものづくり企業における以下の2テーマについて基礎の習得、議論と試作開発を行います。※ご参加はどちらか一方とさせていただきます。 ① DXによるものづくり改革 目標：デザインシンキングを学び、実際の課題に適用し、DXの課題発見や解決の方法を習得 ② マイコンで学ぶIoTデバイスのプロトタイピング 目標：マイコンによるセンシングとデータ処理方法を学び、IoT機器試作のための基礎技術を習得
(2) 成果発表会 (3月)	グループ毎に研修の成果を発表。(プレゼンテーション、デモ実演など)

【募集対象】 さいたま市内のものづくり企業（DXのデータ解析やIoT機器試作に関心のある若手技術者）

【定員】 各テーマ6名程度

【参加費】 1,000円（交通費は参加企業の負担とします）

【参加申込方法】 下記フォームあるいはQRコードから必要事項を記載し、企業を通じてお申し込み下さい。

<https://surl.jp/qstyxP55>

※市外の方からの申込も受け付けます。ただし、応募者多数の場合は、市内に事業所を有する企業を優先します。

【参加申込期限】 8月21日（金）17:00

【主催】 芝浦工業大学、さいたま市 【協力】 公益財団法人さいたま市産業創造財団

※本プログラムは、「さいたま市高度ものづくり人材育成支援事業」として実施するものです。



【テーマ紹介】

私たちは、スマートフォンのみならず、スマートスピーカーやホームオートメーション機器などのいわゆるIoT (Internet of Things)に取り囲まれて生活しており、様々な形でソフトウェアが提供するサービスを受けています。デジタルトランスフォーメーション (DX) は、先端のデジタル技術を使い、既存のビジネスや組織を変革し、新たな価値を創出する取り組みです。製造業においても DX を起こすことは求められていますが、具体的に活動を進めていくことは容易ではありません。そこで本プログラムでは、自社のDXを推進するための糸口を見つけるための手法やIoT機器製作のための基礎を学び、グループワークで実践します。今年度は、下記の2つのテーマを用意しています。

① DXによるものづくり改革（課題解決のための手法を習得）

デザインシンキングを用いて現在の課題や潜在的ニーズを発見し、それらを解決する手法を学びます。また、情報処理推進機構 (IPA) 等が公開しているDXの成功事例を研究し、その知見をDXの実現に活用する方法も学びます。そして、学んだ内容を基にしたグループワークを実施し、その成果を発表会で共有します。

グループへ参加頂きたい方

デジタルトランスフォーメーション (DX) に取り組みたい方や関心のある方、DXで変革したいこと (ニーズ) や変革する方法 (シーズ) をお持ちの方

担当：システム理工学部 情報課程 ソフトウェアコース担当 ソフトウェア工学研究室 教授 久住憲嗣

② マイコンで学ぶIoTデバイスのプロトタイピング* (IoT機器試作のための基礎技術を習得)

電子回路とシステムによるものづくり改革を進めるために、IoT機器を試作するための基礎技術を学習します。もっとも入手しやすいマイコンの一つであるArduinoを用いて、課題を解決するためのIoT機器を試作します。センサの種類と特徴、用途に適するセンサの選び方、LED・ディスプレイ・モータなどのアクチュエータの種類と特徴、これらを扱う方法、生データから目的のデータを得るためのデータ処理、LAN等によるネットワーク接続を実際に体験します。

※プロトタイピング：プロトタイプ機を製作するための過程や手法

グループへ参加頂きたい方

IoT機器を試作してみたい方や関心のある方、IoT機器で解決したい課題や解決する方法をお持ちの方

担当：システム理工学部 情報課程 IoTコース担当 電子回路とシステム研究室

教授 NICODIMUS RETDIAN (ニコデムス レディアン) (講義は、日本語で行います)

以上